

令和6年度 GKP 広報大賞 エントリーシート

団体名 新潟法律大学校 Gゼミ《下水道広報ゼミ》 下水道 Lovers	団体区分 (混成の場合は複数☑) <input type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 民間 <input checked="" type="checkbox"/> 学校・NPO・個人等
取組名：下水道から広がる環境教育 —Z世代とはじめる廃棄物のない世界へ—	
責任者 (実際に広報に取り組んだチームの代表者) 氏名：大平 蒼翔 所属：新潟法律大学校 法学部併修学科3年 電話：025-240-0100 E-mail： nleed@nsg.gr.jp ※ 電話番号及びE-mailは新潟法律大学校代表(ゼミ担当教員：戸田 聡)	
担当チームの構成 (外部人材を活用している場合や外部委託をしている場合等は、その旨記載して下さい) 1年:山田ななみ・今野優花・安田愛花 4年:本田穂乃香(元ゼミ長・アドバイザー) 2年:横山和輝(2年ゼミ長)・松村淑花(2年ゼミ長)・荒川海晴・大平翼・齋藤由土・渡部亮太・木村友大 3年:大平蒼翔(3年ゼミ長)・間千真(3年ゼミ長)・山倉大葵・渡辺さら・宮下耀・野本慧	
取組のポイント (一言でいうとどういう取組かを、箇条書き等で記載して下さい) トレーディングカードゲームを使用し、Z世代をターゲットにした水環境・地球環境の視点の下水道広報 新潟法律大学校Gゼミ《下水道広報ゼミ》は新潟市下水道部と協働し私達学生の手で下水道を広報するゼミである。2022年新潟市下水道部の出前講座をきっかけに、有志によりGゼミが立ち上がる。下水道を調べる中で私達を驚愕させたのは、下水道事業が汚泥まで資源として活用しすべて循環していることだ。環境に関心の高いZ世代α世代にこれを伝えることが広報になると考えた。さらに、それが水環境・地球環境教育になると考えて企画実施した。この3年間、下水道の仕組みでサステナブルな循環型社会の在り方を知る、小学生向け自由研究教室や中高大学生向け探求授業を行ってきた。現在、この授業を発展させ、授業後も反復的に体験でき拡散性も期待できる”カードゲーム”の企画開発・普及を行う。結果、受講者の授業理解がより深まった。	
アピールポイント <ul style="list-style-type: none"> ○ 下水道を『地球環境を救う循環経済(Circular Economy)の寵児』と捉えプロモーションする視点 ○ Z世代・α世代にターゲットを絞り、彼らが興味ある地球環境問題をテーマに見据えた下水道広報 ○ 3年にわたり、新潟市と協働しながら、私達学生が企画から実施まで主体となり続けてきたこと ○ 授業から始まり、反復的に体験でき拡散性も期待できるゲーム開発と普及の取り組みに至ったこと ○ 受講者視点に立ち、楽しみながら能動的に授業に取り組めるプログラム開発を徹底してきたこと 新潟市下水道部のお話や、処理場見学を聞き下水道事業を知るにつれ下水道が循環型社会を象徴する事業であることを知った。しかし、20代30代の6割以上は下水道の関心が低い。(H29国土交通省「下水道に関する意識調査」)私達世代は環境問題に興味があるというデータがある中「関心がないなんておかしい」と考えた。	
要したコスト A4 ケント紙:1deck10枚×50set=500枚=6,250円 スリーブ:1deck50枚×50set=2,500枚=18,750円 カラーコピー代:1deck10枚×50set=500枚=10,000円 Deck ケース×1ケース=5,000円 合計 40,000円	

ウラ面に続きます

取組の概要 (適宜、写真や図等を挿入して下さい。複数年度にわたる取組の場合は、その旨記載して下さい)
 私たちのゼミは、先輩から後輩へと3代にわたって下水道広報に取り組んできた。初代は「下水道をモチーフにしたSDGs教育のシステム開発」と「下水道アート化計画」の2つ。2代目はこれを融合させ「下水道モチーフのトレーディングカードゲームの開発」と「カードゲームを使用したサーキュラーエコノミー教育」を企画する。続いて3代目は「トレーディングカードゲームの製品化」と「カードゲームを使用したサーキュラーエコノミー教育のパッケージ化」、さらには、全国を取組み事例を紹介する中で「全国下水道部を巻き込む取組み」に着手し、全国発信フェーズ突入を目指している。

OGAME 概要

カード配置図

課題 card 山札
 課題 card
 サポート card etc.
 ソリューション card (課題解決・必要数×2)
 山札
 手札
 資金 card (1枚×1手札)

課題 card
 裏面
 リソース card
 水 Niigata

リソースカード
 課題を解決するカード。下水道処理に用いる様々な設備事例を題材としている。右上の数字がカードの資源価値。右下の数字がカードを使用するに必要なコストを意味する。
 《黄色「リソース card」と明記》

課題カード
 課題を解決したカードで、リソースカードを消費し、獲得できる。右上の数字がその課題カードの処理に必要なコストを意味する。
 《赤色「課題 card」と明記》

サポートカード
 1ターンの間、自身に有利な効果を与える。リソースカードの必要数を軽減するカードなど、自分に有利な影響をもたらす。
 《灰色「サポート card」と明記》

フィールドカード
 数ターンの間、両者に効果を与える。自分だけでなく相手のにも影響を及ぼすため、攻守が有利不利になる。
 《緑色「フィールドカード」と明記》

準備フェーズ課題解決フェーズの2フェーズで行われます

○下水道の取組を紹介するリソースカード(抜粋)



○カードゲームを使用した授業と研修の様子



現在は新潟市内の高校・専門学校・一般の社会人講座などで、カードゲームを使い、下水道を紹介する授業を行っている。その中で改善点などを見つけ出し授業をブラッシュアップ中。目指すは全国区。

成果 (数字を交えるなど、できるだけ具体的に記載して下さい)

参加者ゼミ 1〜3 期生合計 36 名、授業参加者合計 520 名、総計 556 名

各授業やイベント終了後に取ったアンケートでは、下水道に対する『汚い』『臭い』などのマイナスイメージが100%払拭され、100%の受講者が『必要』『興味ある』などプラスイメージを持つようになった。授業の終了後のインタビューでの聞き取り調査では、水の循環やサーキュラーエコノミーに対する重要性の認識と理解の深化がみられた。当校学生に至っては、この授業を通してゼミ参加した学生もいた。また、授業を行う中で、水の循環やサーキュラーエコノミーなどの深い知識が得られたことが、私たちの視点も広げてくれた。特に授業中に使用するトレーディングカードゲーム『Circular Economy 水 deck』は好評で「このゲームやばい(楽しいという意味)」「このゲームつくった人天才」「このゲーム欲しい」などの授業中漏れ出る受講者の声やアンケートの声で授業の面白さに確信を得る。さらには「経年劣化ってやばい(問題だという意味)」「発電までスゴイ」など下水道の問題点や役割を理解した発言に大満足。また、新潟市下水道部は私たちを研修会の講師として呼んでくださった。そのような評価、さらには一緒に取り組んでくださる姿勢に感激した。また、カードをつくるために協力をお願いした12団体に紹介したカードプロトタイプに対し「よくできている」(新潟市)「興味深く見入ってしまいます」(北九州市)などの感想をもらいさらに自信に!